

JAC AWARD 2022 私が選ぶベスト3



篠原誠

株式会社篠原誠事務所

95年一橋大学卒業後、電通入社。CMプランナー兼コピーライターを経て、クリエイティブディレクターに。18年篠原誠事務所設立。主な仕事にau三太郎&高杉くん・トヨタタイムズ・UQUEEN・アタックゼロ・一番搾りなど。 auCMソング「海の声」「みんながみんな英雄」「やってみよう」やJTCMソング「想うた」、みんなのうた「デッカイばあちゃん」の作詞やNHKドラマ「嘘なんてひとつもないの」やWOWOW「有村架純の撮休」の脚本も手がける。

ディレクター部門

★First place

▶ 「幸せの神」 小林 洋介（東北新社）

メッセージもとても、面白かったのと、神様のキャラクターの作り方、そして、音楽含め全体のトクマナの作り方が、ずば抜けて好きだったので1位にしました。

★Second place

▶ 「新しい門出」 高原 春菜（ハット）

禁断のエロジャンルなのですが、単純に面白かったです。それでいてメッセージは、考えさせられる感じがあって、ある意味、夢がかなわなかった人のエールにみえて、その部分も含め2位にしました。

★Third place

▶ 「毒林檎」 藤後 麻理絵（博報堂プロダクツ）

視点がアートっぽいだけなら、選ばなかったのですが、メッセージが結構深く、しっかりしていたのと、演出がとてもレベル高いので3位にしました。ある意味、1位でもよかったぐらいです。

ディレクター個人応募部門

★First place

▶ 「祖母のアンサー」 長塩 希代 (博報堂プロダクツ)

ドキュメンタリーですが、リアルな言葉の引き出し方、そして、あえてオンリップは使わず、作った構成がとてもいいと思いました。そして、最後のコピーもとても、いいと思い総合力で1位にしました。

★Second place

▶ 「ささやかな幸せ」 畑野 亮 (電通クリエイティブX)

企画、(メッセージ)がとてもいいと思いました。また、メッセージに向けての最後の編集が、短く端的に伝わる構成になっていて、そこもすごく上手だと思いました。

★Third place

▶ 「家族」 森野 継偉 (GMO ENGINE)

前半の作りと、最後のどんでん返しのギャップが見事で3位にいました。その演出の切れ味に1票です。